

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 29 年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて  WEB 事前参加登録 6 月 1 日～7 月 31 日	102
○平成 29 年度農業農村工学会大会講演会（神奈川大会）の企業展示および広告掲載申込みについて 申込締切 6 月 30 日	103
○研究部会長の交代について	103
○「2050 年農業・農村の姿」ポスターの公募について（第 1 報）	104
○平成 29 年度「研究グループ」への助成希望者募集について 申請締切 6 月 30 日	104
○平成 29 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について 申請締切 9 月 15 日	104
○平成 29 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再） 申請締切 4 月 14 日	105
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	106
○学生会員入会時の特典について	106
○「水土の知（農業農村工学会誌）」読者の氏名公表とご協力のお礼	106
○「農業農村工学会論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼	107
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!	108
○平成 30 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	108
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	109
○International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 2017 国際会議 の開催について	110
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	110
○第 74 回京都支部研究発表会の開催について（第 1 報）  発表申込締切 6 月 30 日	111
○平成 29 年度九州沖縄支部大会の開催について（第 1 報）  開催地：福岡市博多区	111
農業農村工学会論文集内容紹介	112
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」内容紹介	112
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	116
受入れ図書	117
文献目録	117
学会記事	120

会員のみなさまへ

例年、4 月は転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。

引き続き学会誌を正しくお届けするために、転職・転居などで個人情報に変更のあった方は、suido@jsidre.or.jp までご連絡ください。また、学会ホームページの会員専用サイトからも会員登録情報の確認および更新手続きを行うことができます。

なお、学会誌を職場等で連絡委員を通じてお受取りの方は、連絡委員にその旨、お申し出ください。

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちいたしております。

 のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名		テーマ	開催場所	掲載号
平成 29 年 8 月 29 日～9 月 1 日	大会運営委員会	平成 29 年度大会講演会		—	藤沢市	84 巻 12 号 85 巻 1, 4 号
平成 29 年 10 月 25, 26 日	京都支部	第 74 回研究発表会		—	金沢市	85 巻 4 号
平成 29 年 11 月 1, 2 日	九州沖縄支部	平成 29 年度支部大会		—	福岡市	85 巻 4 号

第85巻第5号予定

展望：これからの農業農村工学のために：西村 拓

小特集：多彩な農業農村工学の魅力の発信

▷報文：学生から見た農業農村工学の魅力：辰野宇大

▷報文：農業農村工学の魅力と若手の人的ネットワーク構築：中桐貴生

▷報文：仕事の経験を私生活に生かし、私生活の経験を仕事に生かす：越山直子

▷報文：若手女性技術者が体験した土木工事現場の魅力：小笠真理恵

▷報文：女性技術者から見た農業土木コンサルタントの世界：社家里枝子ほか

▷報文：行政の立場から見た農業農村工学について：佐々木 優

▷報文：「農業農村整備×広報」のすすめ：玉手純子

▷報文：新たな時代に合った魅力ある職場環境とは何か：親川千寿子

▷報文：フィールドワークは面白い 瑞慶村知佳

技術リポート

北海道支部：転石の流下する排水路の護岸補強工法の試行：稲本 晃ほか

東北支部：たかのこため池における液状化対策の施工事例：池田勝行ほか

関東支部：「小鹿野用水路」の長寿命化：大河戸輝夫ほか

京都支部：幹線用水路（大口径管）の漏水対策：柴田祐紀

中国四国支部：日野川流域における積雪量経年変化の推定事例：有森正浩

九州沖縄支部：大口径ボーリングマシン施工時の建設汚泥の削減：橋村健太郎

平成29年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成29年度農業農村工学会大会講演会は、平成29年8月29日（火）～9月1日（金）の4日間、日本大学生物資源科学部（神奈川県藤沢市）で開催されます。本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録（事前登録）は、平成29年6月1日から7月31日までです。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌7月号（Vol.85/No.7）をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

1. 開催要領

(1) 開会式典および学会賞表彰式：

8月29日（火）13：30～

会場 日本大学生物資源科学部
（神奈川県藤沢市亀井野1866）

(2) 交流会：8月29日（火）18：00～20：00

会場 日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

(3) 講演会：8月29日（火）、30日（水）、31日（木）

会場 日本大学生物資源科学部

(4) 現地研修会：9月1日（金）

三浦半島方面（1コース）

開会式および交流会の開始時間についてはプログラムの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細・プログラムとともに本誌7月号に掲載します。

2. 申込方法

平成29年度農業農村工学会大会専用ホームページ（平成29年6月1日から7月31日）から参加登録（事前登録）をしてください。8月1日以降は当日登録（8,000円）のみとなります。このホームページは農業農村工学会のホームページからもリン

クされます。ホームページによる登録ができず、その他の方法での申込みを希望する場合は、「8. (1) 参加申込みに関する問合せ」までご連絡ください。

3. 参加費用

(1) 大会参加費用と内容

区分	事前登録（7/31まで）	当日登録
一般	6,000円	8,000円
学生	3,000円	5,000円

キャンセルの場合、8月1日以降は50%、8月28日以降は100%のキャンセル料が発生します。

(2) 交流会参加費：一般 7,000円、学生 3,000円

(3) 現地研修会参加費：3,000円（昼食代別）

4. 講演要旨集について

CD-ROM版講演要旨集は参加者全員にお渡しいたします。事前の送付を希望する場合は、ホームページでの参加登録時にお申し込みください。ただし、CD-ROM版講演要旨集の事前送付は事前登録期間（7月31日まで）にお申し込みいただいた場合のみの対応となります。

なお、これらの講演要旨集とは別に、プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の200字要旨などを収録した大会概要集を、大会当日受付にて参加者全員にお渡しします。

5. 昼食

大学の食堂は混雑が予想されますので、事前登録の際に弁当の予約を受け付けます。

弁当は1食900円（お茶つき、消費税込み）です。ホームページよりお申し込みください。

6. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しません。あらかじめご了承ください。

7. 会場までの交通案内

日本大学生物資源科学部は、六会日大前駅から徒歩約5分と
なっています。詳しくは次の日本大学生物資源科学部ホーム
ページを参照してください。

http://www.brs.nihon-u.ac.jp/access_map.html

8. 問合せ先

(1) 参加申込みに関する問合せ

(株)JTBCコーポレートセールス 法人営業横浜支店
平成29年度農業農村工学会大会講演会 受付デスク
〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町3-29-1
TEL:045-316-4602 FAX:045-316-5701
E-mail:jtb_convention@bwt.jtb.jp

営業時間:平日9:30~17:30(土日祝日休業)

(2) 大会全般に関する問合せ

平成29年度農業農村工学会大会実行委員会事務局
長坂貞郎または笹田勝寛
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
日本大学生物資源科学部生物環境工学科
TEL:0466-84-3829(長坂),3836(笹田)
FAX:0466-84-3829
E-mail:npsc2017@brs.nihon-u.ac.jp

9. 大会実行委員会

委員長 石川重雄
日本大学生物資源科学部生物環境工学科

平成29年度農業農村工学会大会講演会(神奈川大会)の企業展示および広告掲載申込みについて

平成29年8月29日(火),30日(水),31日(木)の3日間,
日本大学生物資源科学部(神奈川県藤沢市)で開催されます
平成29年度農業農村工学会大会講演会において,企業展示を行
います。展示を希望される企業は,下記要領によりお申し込み
ください。

1. 企業展示(展示会場)

日本大学生物資源科学部(湘南キャンパス)
※具体的な場所や条件はお問い合わせください。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載(B5判モノクロ印刷)
※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

①広告1ページ	60,000円
②広告1/2ページ	30,000円
③企業展示(屋内)	80,000円
④広告1ページ+企業展示(屋内)	120,000円
⑤広告1/2ページ+企業展示(屋内)	100,000円

4. 申込方法

(1) 申込手順(a→b→c→d)

- a(貴社) 所定の申込用紙(学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)の「事務局からのお知らせ」に掲載)と(2)展示概要(任意様式)を送付(郵送,E-mail等)
b(事務局) 申込み受付後,貴社へ請求書発送

c(貴社) 振込み

d(事務局) 領収書および広告掲載紙を発送(完了)

(2) 展示概要 展示する内容および必要物品等(要電源,机,イス等),希望事項(屋内スペースで○m²,屋外スペースで○○m²等)等を任意様式で作成・提出してください。(基準面積は2.7m×1m(屋内)です。)

(3) 申込期限 平成29年6月30日(金)まで

(4) 振込先

- ・金融機関:ゆうちょ銀行
- ・店名:〇九八
- ・店番:098
- ・預金種目:普通預金
- ・口座番号:1306784
- ・口座名義:平成29年度農業農村工学会大会実行委員会

(5) 申込み・問合せ先

平成29年度農業農村工学会大会実行委員会事務局
斉藤丈士
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
日本大学生物資源科学部生物環境工学科
TEL:0466-84-3827(直通) FAX:0466-84-3827
E-mail:saito.takeshi13@nihon-u.ac.jp
(問合せは,できるだけE-mailをお願いします。)

研究部会長の交代について

下記のとおり研究部会長が交代しました。

記

農村生態工学研究部会(平成29年1月1日付)
新部会長 神宮字 寛(宮城大学食産業学部教授)
前部会長 森 淳

土壌物理研究部会(平成29年4月1日付)
新部会長 長 裕幸(佐賀大学農学部教授)
前部会長 成岡 市

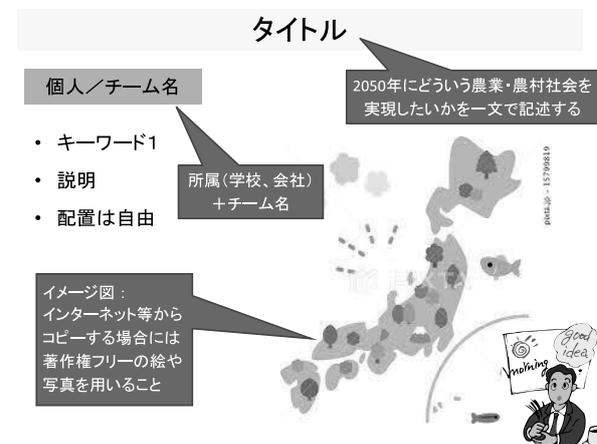
「2050年農業・農村の姿」ポスターの公募について（第1報）

農業農村工学会では、「2050年農業・農村の姿」実行委員会（仮称）を設けて、「2050年農業・農村の姿」を高校生、大学生、そして学会員を含む一般部門にわけて、広くポスターを募集します。優秀な作品は、2017年8月、日本大学生物資源科学部（神奈川県藤沢市）で開催する大会講演会で表彰する予定です。

ポスター募集の趣旨は「21世紀を半分過ぎた2050年とはどのような農業や農村になっていると思いますか。人口減少と高齢化の進行が農業や農村にどのような影響を与えているでしょうか。気候変動、エネルギーセキュリティが私たちの生活に与える影響はどこまで進むのでしょうか。情報化社会は一層進み、ロボットが多くの労働力を支える社会になるのでしょうか。あなたは、2050年の農業や農村がどのようなようになってほしいですか。2050年に向けてこれから牽引役となる高校生、大学生、社会人である若者の皆さん、あなたが実現したい農業・農村の姿のポスターを描いてみませんか。学会は若者の皆さんの

さまざまなアイデアを待っています」というものです。

詳細は改めて学会誌およびホームページなどに掲載します。



平成29年度「研究グループ」への助成希望者募集について

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件以内です。

本年度の申請締切は、平成29年6月30日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会ホームページ参照）で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成29年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度

（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成29年9月15日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式

(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成29年9月15日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

平成29年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再）

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成29年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてにお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。
- (2) 平成29年度中（平成29年4月から30年3月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助

する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

4. 申請締切 平成29年4月14日（金）

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階

(公社) 農業農村工学会 学術基金運営委員会

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット (ハンドブック+用語事典+初年度会費) に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット (従来)

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000円 (15,750円)

大学院生 19,500円 (16,750円)

②必携3点セット (新設)

(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000円 (5,750円)

大学院生 10,000円 (7,250円)

③2点セット (新設)

(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000円 (3,750円)

大学院生 8,000円 (5,250円)

() 内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携 (第二版)

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 (公社) 農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知 (農業農村工学会誌)」 読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会誌企画・編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成28年4月から平成29年3月までの一年間に閲覧にご協力いただきました方々のお名前 (五十音順・敬称略) を記し、ご貢献の証とさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(平成29年3月1日現在)

栗生田 忠雄	市野 吉造	遠藤 和子	木山 正一	島崎 昌彦
阿部 耕三	稲葉 一成	大久保 卓也	工藤 庸介	清水 夏樹
井 雄一郎	井上 一哉	大村 学	齋藤 邦人	清水 穂高
石井 敦	井上 京	岡澤 宏	坂田 寧代	莊林 幹太郎
石井 敏	今井 忠延	岡島 賢治	佐藤 健	神宮 字 寛
石田 憲治	岩間 憲治	小栗 幸樹	澤田 豊	杉山 行男
泉 太郎	内海 晋	木全 卓	柴田 俊文	鈴木 俊弘

清野 修	中桐 貴生	林 春奈	降 英樹	村上 一樹
關 保昌	長坂 貞郎	原口 智和	堀田 昇克	村松 睦宏
竹内 潤一郎	中嶋 勇	廣内 慎司	堀川 直紀	森 淳
竹下 伸一	中田 和義	広田 純一	前田 健次	山岡 和純
多田 明夫	中村 和正	福田 信二	松原 英治	山口 武彦
田中 良和	仲村 渠保	藤井 秀人	皆川 明子	山本 忠男
田村 孝浩	新倉 徹也	藤田 覚	峯岸 正人	吉迫 宏
塚本 康貴	西田 和弘	藤原 信好	三宅 諭	吉田 修一郎
中 達雄	濱上 邦彦	藤原 洋一	宗岡 寿美	

「農業農村工学論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会論文集企画・編集委員会では、査読者への感謝の意を表すべく、平成28年4月から平成29年3月までの一年間に査読にご協力いただきました方々のお名前（五十音順・敬称略）を記し、ご貢献の証とさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

（平成29年3月1日現在）

粟生田 忠雄	小川 茂男	酒井 一人	友正 達美	藤原 正幸
芦田 敏文	奥野 倫太郎	坂井 勝	中桐 貴生	星川 圭介
安瀬地 一作	小田 晃	榊原 淳一	長坂 貞郎	堀 俊和
有吉 充	落合 博之	坂田 賢	中島 正裕	前田 健一
石井 敦	鬼丸 竜治	櫻井 伸治	中田 達	前田 敏也
石井 将幸	角道 弘文	佐藤 邦明	中野 恵子	牧野 知之
石神 暁郎	加藤 幸	佐藤 周之	中村 和正	牧山 正男
石黒 覚	加藤 亮	佐藤 政良	中村 公人	松井 宏之
泉 智揮	金山 素平	澤田 豊	中矢 哲郎	松島 健一
泉 太郎	唐崎 卓也	重岡 徹	長束 勇	溝口 勝
泉 完	川端 雄一郎	菅原 喜久男	成岡 道男	三野 徹
伊藤 健吾	北川 巖	鈴木 哲也	西田 和弘	皆川 明子
伊藤 祐二	木下 幸雄	鈴木 正貴	西田 一也	武藤 由子
伊藤 良栄	木村 匡臣	周藤 将司	西村 拓	宗岡 寿美
稲垣 仁根	桐 博英	瀬戸内 秀規	西山 竜朗	望月 秀俊
猪迫 耕二	申田 圭司	宗村 広昭	西脇 淳子	森 淳
岩田 幸良	久保 成隆	田頭 秀和	橋本 洋平	森 誠一
岩間 憲治	久保田 富次郎	瀧本 裕士	服部 俊宏	森 也寸志
上野 直広	久米 崇	竹下 伸一	濱 武英	諸泉 利嗣
白井 靖浩	栗田 英治	竹村 武士	濱上 邦彦	山岡 賢
宇波 耕一	黒田 久雄	田中 勉	濱本 昌一郎	山下 良平
鶴木 啓二	小出水 規行	田中丸 治哉	林田 洋一	山本 忠男
江口 定夫	郷古 雅春	谷 宏	原科 幸爾	弓削 こずえ
大澤 和敏	小島 悠揮	谷口 智之	平 瑞樹	吉田 郁政
大槻 恭一	小西 孝明	塚本 康貴	廣瀬 裕一	吉田 修一郎
岡島 賢治	小林 幹佳	渡嘉敷 勝	福本 昌人	若井 明彦
緒方 英彦	齋藤 朱未	徳本 家康	藤澤 和謙	渡辺 晋生

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 4 月号掲載の問題は 5 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 30 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 30 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはず。それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第 86 巻（平成 30 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切

り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

春季 平成 29 年 6 月 30 日

夏季 平成 29 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 86 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 30 年度全国大会会場内でパネル展示します。

8. 「Cover History (表紙写真由来)」執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、

写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 85 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 85 巻第 5 号 多彩な農業農村工学の魅力の発信 (仮)	公募終了
6 号 「水土の知」の技術開発を促進する産学官の連携 (仮)	公募終了
7 号 関東の農業農村整備 (仮): 大会特集号	公募なし
8 号 いま農業農村工学がおもしろい (仮)	公募なし
9 号 土地改良法改正を問う (仮)	平成 29 年 5 月 15 日
10 号 進化する畑作農業 (仮)	平成 29 年 6 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

第 85 巻第 9 号テーマ「土地改良法改正を問う」(仮)

今期(第 193 回)通常国会では、「土地改良法等の一部を改正する法律案」が農業改革 8 法案の一つとして、農林水産省農村振興局より提出されています。この法案は、農地中間管理機構が賃借権などを取得した農用地についても、土地改良事業が円滑に実施できるようにする内容となっています。

この法改正の背景として、平成 28 年 8 月に閣議決定された土地改良長期計画では、現行の土地改良制度で検証・検討を要する事項として、次の各項目を掲げていました。

- ① 農地の担い手への集積・集約の加速化に向けた農地中間管理機構との連携の在り方。
- ② 将来の地域農業を担う経営感覚に優れた経営体の意向を適切に反映するとともに、地域の貴重な財産である農地や農業水利施設を次世代に適切に継承できるような事業参加資格者の在り方。
- ③ 農業水利施設の整備内容が新設から更新主体となる中

で、施設の更新をより円滑に実施することができる制度の在り方。

- ④ 農業水利施設等の整備・管理という本来の役割に加え、農村協働力を支えるという役割が、将来にわたって発揮できるような土地改良区の在り方。

今回の法案は、このうちの①と③を先行して改正するものであり、②や④は継続検討となる見込みです。しかし時代の趨勢に適応した土地改良制度を設計・構築・運用していくためには、農業農村整備に携わる技術者や研究者、あるいは事業当事者からのフィードバック、問題提起、提案や提言が不可欠です。そこでこれらに関連のある先進的な取組み事例や、あるべき姿の提言など、これからの土地改良法・土地改良制度の在り方を考える際の参考となる知見や情報を、学会誌掲載の報文として提供していただきたく、広く会員の皆様から原稿を募集いたします。

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 2017 国際会議 の開催について

国際水田・水環境工学会 (PAWEES) の国際会議は、2017 年 11 月 9～10 日、台湾台中市の Nan-Shan Education & Training Center で開催されます。詳しくは PAWEES 2017 ホームページ (<https://pawees.tk/>) をご覧ください。

1. **開催日** 2017 年 11 月 9 日 (木)～10 日 (金)
2. **会場** Nan-Shan Education & Training Center, Taichung City, TAIWAN

3. テーマ

Main Theme : Sustainable Water and Environmental Management

Topic 1 : Sustainable water use and ecologically sustainable development

Topic 2 : Development of rural society with water in Asia

Topic 3 : Sustainable paddy farming

Topic 4 : Integrated watershed management

Topic 5 : Droughts and flood disaster risk management

Student session : Sustainable Water and Environmental Management

4. 今後の日程

8 月 31 日 Abstract 提出

9 月 30 日 受理通知

9 月 30 日 参加登録締切

5. **投稿先** Web 登録の予定です。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor (20 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2016 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)

Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan

・ **Editors** 14 カ国から 20 名

・ **Advisory Editing Board** 29 名

・ **Chief Management Editor**

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

・ **Managing Editors**

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2016 年 7 月から 2018 年 6 月まで) :

・ Dr. Yu-Pin LIN

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering,
National Taiwan University
No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,
Rep. of China
TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980
FAX : + 886-2-2368-6980
E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年4回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局

第 74 回京都支部研究発表会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

日時 平成 29 年 10 月 25 日（水）10：00～17：00

場所 石川県地場産業振興センター

〒920-8203 石川県金沢市鞍月 2-1

TEL : 076-268-2010 FAX : 076-268-2859

2. 情報交換会

日時 平成 29 年 10 月 25 日（水）18：00～20：00

3. 現地研修会

日時 平成 29 年 10 月 26 日（木）9：00～16：00

4. 研究発表申込み

研究発表者は投稿原稿に先立ち、6 月末日までに、以下の情報を簡条書きにしたメールを下記の発表申込先（京都大学・藤澤）にご送付ください（件名を「発表申込み」としてください）。

①表題（仮題でも可）、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門（水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他）、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。

昨年度から発表者要件は「発表者は学会員に限らない。ただ

し、連名者に少なくとも 1 名は学会員が含まれること」となっております。なお、投稿原稿に関する詳細な要領は 6 月号を参照してください。

5. 参加費 会 員：3,000 円

非会員：4,500 円

6. 発表申込先

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻 藤澤和謙

E-mail : fujik@kais.kyoto-u.ac.jp

TEL : 075-753-6152 FAX : 075-753-6346

7. 申込期限

(1) 発表申込み 平成 29 年 6 月末日

(2) 原稿締切 平成 29 年 7 月末日

(3) 参加申込み 平成 29 年 8 月末日

8. 問合せ先

石川県農林水産部農業基盤課

企画調整グループ 川口

E-mail : e211300@pref.ishikawa.lg.jp

sohei@pref.ishikawa.lg.jp

TEL : 076-225-1612 FAX : 076-225-1638

平成 29 年度九州沖縄支部大会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日および内容

(1) 講演会：平成 29 年 11 月 1 日（水）、2 日（木）

オーラルセッション・ポスターセッション

(2) シンポジウム：平成 29 年 11 月 1 日（水）

テーマ未定

(3) 講習会：平成 29 年 11 月 2 日（木）

設計基準書等の解説

(4) 現地見学会：平成 29 年 11 月 2 日（木）

未定

2. 会 場

パピヨン 24

〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代 1-17-1

3. プログラムおよび申込方法等

第 2 報にて詳細をお知らせします。

全国各地から多数のご参加をお待ちしております。

4. 問合せ先

福岡県農林水産部農山漁村振興課技術管理係 今村

〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園 7-7

TEL : 092-643-3504 FAX : 092-642-4605

E-mail : imamura-d9520@pref.fukuoka.lg.jp